



東地中海地域ニュース

パレスチナ：アッバス大統領とオバマ米大統領の首脳会談

(5月29、30日付パレスチナ通信、マアン通信)

5月29、30日付のパレスチナ通信(WAFA)及びマアン通信は、アッバス大統領とオバマ米大統領の首脳会談の記者会見での発言、ハマスの反応等について報じている。取りまとめ要旨は以下の通り。

1. アッバス大統領とオバマ大統領の記者会見

(1) アッバス大統領

パレスチナ側は、ロードマップに全面的にコミットしており、その義務の履行こそが公正かつ包括的な和平に到る唯一の道である。

自分がオバマ大統領に対して提示したアイディアは、正に、ロードマップ及びアラブ和平提案に含まれていることである。カルテット、アラブ連盟フォローアップ委員会及びいくつかのイスラム諸国といった(このアイディアの)履行のためのメカニズムが存在している。

オバマ大統領は、ロードマップに示された国際的な義務と(イスラエルとパレスチナの)二国家が存在すべきこと、また、入植活動の停止の必要性を強調した。

我々は、西岸における治安維持の義務を履行していく。これは第一に我々の利益であり、地域の安定のためでもある。

(2) オバマ米大統領

イスラエルは、二国家解決策を受け入れるようになるだろう。イスラエルの長期的な利益と戦略を踏まえれば、二国家解決策は、米国のみならずイスラエルの利益にも適う。

アラブ諸国は、アッバス大統領の努力に対して政治的及び経済的な支持を続ける事が重要である。

2. エラカート PLO 交渉局長の発言

(1) オバマ米大統領が中東和平に示したコミットメントに関して、パレスチナ指導部は(今後の推移を)楽観視している。パレスチナと米国の間には、和平達成に向けた共通の利益が存在している。

(2) 和平プロセスの失敗は、停滞と更なる争いをもたらす。イスラエルが既存の合意の義務を果たさない事が和平プロセスのクレジットを弱め、入植地の拡大継続が

二国家解決策の実現可能性を破壊しつつある。パレスチナ側は、その義務の履行について大きな進展を見せたが、イスラエル側にも同様の対応を期待している。すなわち、自然増を含む入植地の拡大凍結及びパレスチナ人の移動制限の撤廃である。これは（交渉の）前提条件ではなく、イスラエル側の義務である。

(3) 和平は手の届くところにある。57のアラブ・イスラム諸国がイスラエルに和平の手を差し伸べているが、これは永遠にそのままである訳ではない。

3. ハマスの反応（マアン通信）

ファウジー・バルフーム・ハマス報道官は以下の声明を発表した。

(1) アッバス大統領とオバマ米大統領の首脳会談は、何も新しい事がなくパレスチナ人にとって失望させられるものであった。

(2) アッバス大統領は、全てのパレスチナ諸派が拒絶しているロードマップへの同意を表明したが、このことには特にながかりした。アッバス大統領は、政治的逮捕、対話の妨害及び西岸における非合法的な内閣組閣を実施し、対話を成功に導く事を何一つしていない。

(3) イスラエルが暗殺、逮捕、土地収用及びガザ地区の封鎖を続けている中で、オバマ大統領が表明した（中東和平に関する）希望は、十分ではなく無益である。